

平成25年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月12日

上場会社名 ジョルダン株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3710 URL <http://www.jorudan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 俊和
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画室長 (氏名) 岩田 一輝 (TEL) 03-5369-4051
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第3四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第3四半期	3,247	△11.8	344	△18.5	338	△22.1	222	1.2
24年9月期第3四半期	3,683	4.6	423	△9.0	434	△8.0	219	2.0

(注) 包括利益 25年9月期第3四半期 244百万円(13.6%) 24年9月期第3四半期 215百万円(△3.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第3四半期	42.60	—
24年9月期第3四半期	42.40	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年9月期第3四半期	4,608	3,631	77.5
24年9月期	4,781	3,477	70.5

(参考) 自己資本 25年9月期第3四半期 3,570百万円 24年9月期 3,370百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	0.00	—	8.00	8.00
25年9月期	—	0.00	—	—	—
25年9月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,350	△10.5	530	△5.8	535	△6.3	320	100.8	61.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) イーツアー株式会社、除外 2社(社名) 株式会社エクスプレス・コンテンツバンク、株式会社グルメぴあネットワーク

(注) イーツアー株式会社については、みなし取得日を第1四半期連結会計期間末としているため、第2四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。株式会社エクスプレス・コンテンツバンクについては、みなし売却日を第1四半期連結会計期間末としているため、第1四半期連結会計期間の損益計算書のみ連結しております。株式会社グルメぴあネットワークについては、平成25年4月1日付で当社との吸収合併により消滅したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年9月期3Q	5,255,000株	24年9月期	5,255,000株
② 期末自己株式数	25年9月期3Q	35,403株	24年9月期	35,403株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年9月期3Q	5,219,597株	24年9月期3Q	5,182,534株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績等は、今後の経済情勢、市場動向に関わるリスクや不確定要因等により変動する可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成24年10月1日～平成25年6月30日）におけるわが国経済は、景気に持ち直しの動きが見られ、先行きについても輸出の持ち直しや企業収益の改善等を背景に景気回復に向かうことが期待される状況となっております。

情報通信業界におきましても、企業のソフトウェア投資や情報サービス業及びインターネット附随サービス業の売上高は前年同四半期（平成23年10月1日～平成24年6月30日）と比べ増加傾向となっております。このような中、スマートフォンの急速な普及に加え、無線LANやモバイルデータ通信の高速規格の普及等、モバイル情報通信に関する市場環境の変革が加速してまいりました。

当社グループにおきましても、この市場環境の変革に対応し、更なる事業展開の基盤を確立してまいりました。「乗換案内」の各種インターネットサービス（携帯電話サイト・スマートフォンアプリ・スマートフォンサイト・PCサイト）の検索回数は平成25年3月には月間約2億2,000万回となっており、多くの方々に広くご利用いただいております。

このような環境の中で、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は3,247,028千円（前年同四半期比11.8%減）、営業利益は344,701千円（前年同四半期比18.5%減）、経常利益は338,769千円（前年同四半期比22.1%減）、四半期純利益は222,378千円（前年同四半期比1.2%増）という経営成績となりました。

売上高につきましては、マルチメディア事業セグメントにおける売上高が234,741千円（前年同四半期比64.5%減）となったこと等により、前年同四半期と比べ減少いたしました。利益につきましては、前年同四半期と比べ、マルチメディア事業セグメントにおいては損失が減少しておりますが、乗換案内事業セグメント及びその他セグメントにおいては利益が減少しており、営業利益及び経常利益は前年同四半期と比べ減少しております。四半期純利益につきましては、それらの影響に加えてのれん償却額の発生等があった一方で、連結子会社であった株式会社グルメリブネットワーク（GPN）の当社への吸収合併に伴う法人税等の減少等があり、前年同四半期と同程度となりました。のれん償却額は、当社の個別財務諸表上子会社株式（イーツアー株式会社）の評価損を計上したことにより、一時償却（減損処理）したものであります。

なお、第1四半期連結会計期間末よりイーツアーを連結の範囲に含めており、第2四半期連結会計期間から損益を連結しております。また、株式会社エクスプレス・コンテンツバンク（EXCB）が第1四半期連結会計期間末より連結の範囲から外れ、持分法適用の関連会社となったため、同社については第1四半期連結会計期間のみ損益を連結しております。GPNにつきましては、前連結会計年度末より連結の範囲に含めておりましたが、平成25年4月1日に当社に吸収合併したため、同社については第1四半期連結会計期間から第2四半期連結会計期間までの損益を連結しております。なお、第3四半期連結会計期間からは当該事業の損益は当社の損益に反映されております。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(乗換案内事業)

乗換案内事業は全体として、売上高は前年同四半期と同程度となったものの、営業利益は前年同四半期と比べ減少いたしました。製品・サービス別の状況を踏まえた主な変動要因は以下の通りです。

モバイル向けの事業につきましては、モバイル向け有料サービスである「乗換案内NEXT」とスマートフォン向け有料版アプリケーション「乗換案内Plus」を合わせた会員数は、当第3四半期連結累計期間末には約52万人となっております。その結果、前年同四半期と比べ売上高は減少しておりますが、フィーチャーフォンの会員数が減少する一方でスマートフォンの会員数が増加しております。なお、EXCBが連結の範囲から外れたことにより、同社分の売上高が減少しております。

一方で、旅行関連事業に関しましては、業務の見直し及び効率化等を進めた影響で当社分の売上高は前年同四半期と比べ減少しておりますが、イーツアーを連結の範囲に含めたことにより同社分の売上高が増加し、旅行関連事業全体としても前年同四半期と比べ売上高は増加しております。

また、GPNの損益を新たに連結し、当社への吸収合併により第3四半期連結会計期間からは当社の事業として行っていることにより、前年同四半期と比べグルメリブ関連事業の売上高が新たに計上され、乗換案内事業全体の売上高に寄与しております。

以上の結果、乗換案内事業全体としては売上高2,901,941千円（前年同四半期比0.6%増）となりました。営業利益につきましては、利益率の高い事業の売上高の減少や新規連結子会社に係る販売費及び一般管理費の増加等の影響により、706,397千円（前年同四半期比15.4%減）となりました。

（マルチメディア事業）

マルチメディア事業では、出版につきましては、総合オピニオン誌『表現者』を発行しているほか、「ジョルダンブックス」として書籍を発売しております。当第3四半期連結累計期間においては、スマートフォンと雑誌が連動した新しいスタイルの料理マガジン『キレイ食』の刊行等を新たに行っております。またモバイル向けには、「ジョルダンニュース!」等を提供しております。

EXCBが連結の範囲から外れた影響等により、全体として売上高は前年同四半期と比べ大きく減少しております。一方で、営業費用も大きく減少しており、前年同四半期と比べ営業損失は減少しております。

以上の結果、売上高234,741千円（前年同四半期比64.5%減）、営業損失114,601千円（前年同四半期は190,210千円の損失）となりました。

（その他）

受託ソフトウェア開発等におきまして、前年同四半期にはそれ以前から着手していた比較的大型の開発案件の完了等がありましたが、当第3四半期連結累計期間においてはそういったものが無く、前年同四半期と比べた売上高は減少しております。それに伴い、損益につきましても、当第3四半期連結累計期間におきましては営業損失が発生しております。

以上の結果、売上高139,534千円（前年同四半期比22.0%減）、営業損失7,071千円（前年同四半期は30,575千円の利益）となりました。

なお、上記のセグメント別の売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、営業利益は、配賦不能営業費用及びセグメント間の内部取引による営業費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末（平成24年9月末）と比較しますと、資産は173,087千円減の4,608,592千円、負債は326,666千円減の977,542千円、純資産は153,578千円増の3,631,050千円となりました。

資産は、流動資産につきましては、315,400千円減の3,495,459千円となりました。これは、現金及び預金が430,281千円減の2,320,543千円、受取手形及び売掛金が324,954千円減の571,555千円となったこと等の影響が、その他に含まれる前渡金が306,164千円増の318,151千円、同じくその他に含まれる未収法人税等が103,973千円増の104,005千円となったこと等の影響を上回ったことによるものです。現金及び預金が大きく減少しているのは、株式会社エキスプレス・コンテンツバンク（EXCB）が第1四半期連結会計期間末より連結の範囲から外れたこと、イーツアー株式会社の株式を取得したこと、借入金を繰上返済したこと、及び法人税等を支払ったこと等によるものです。受取手形及び売掛金につきましては、主にEXCBが連結の範囲から外れたことにより、大きく減少しております。また、その他に含まれる前渡金が大きく増加しているのは、イーツアー株式会社を第1四半期連結会計期間末から連結の範囲に含めたこと等によるものです。未収法人税等が増加しているのは、法人税等の支払及び法人税等の減少等によるものです。

固定資産につきましては、142,413千円増の1,113,133千円となりました。これは、有形固定資産が35,786千円増の219,308千円、無形固定資産が27,559千円減の303,413千円、投資その他の資産が134,086千円増の590,411千円となったことによるものです。有形固定資産が増加しているのは、主に建物・土地の取得によるものです。無形固定資産が減少しているのは、のれんが34,994千円減の18,612千円となったこと等によるものです。のれんは、EXCBが連結の範囲から外れたこと等により減少しております。投資その他の資産が増加しているのは、投資有価証券が99,060千円増の321,228千円、敷金及び保証金が37,012千円増の228,438千円となったこと等によるものです。投資有価証券が増加したのは、

EXCBが連結の範囲から外れ持分法適用の関連会社となったこと等によるものです。敷金及び保証金が増加したのは、主にイーツアーを連結の範囲に含めたことによるものです。

負債は、流動負債につきましては、169,599千円減の967,986千円となりました。これは、支払手形及び買掛金が91,060千円減の213,760千円、未払費用が98,844千円減の76,978千円、未払法人税等が214,111千円減の5,997千円となり、加えて前連結会計年度末にあった1年内返済予定の長期借入金113,394千円が無くなったこと等の影響が、前受金が417,415千円増の574,998千円となったこと等の影響を上回ったことによるものです。支払手形及び買掛金並びに未払費用が減少しているのは、主にEXCBが連結の範囲から外れたことによるものです。未払法人税等が減少しているのは、法人税等の支払及び法人税等の減少等によるものです。1年内返済予定の長期借入金については、EXCBが連結の範囲から外れたこと及び株式会社グルメびあネットワーク（GPN）において借入金を繰上返済したこと等により無くなっております。また、前受金が大きく増加しているのは、主にイーツアーを連結の範囲に含めたことによるものです。

固定負債につきましては、157,067千円減の9,556千円となりました。これは、前連結会計年度末にあった長期借入金157,723千円が無くなったこと等によるものです。これは、EXCBが連結の範囲から外れたこと及びGPNにおいて借入金を繰上返済したこと等によるものです。

純資産は、株主資本が180,622千円増の3,558,027千円、その他の包括利益累計額が19,431千円増の12,339千円、少数株主持分が46,474千円減の60,683千円となりました。株主資本が増加しているのは、四半期純利益222,378千円が剰余金の配当41,756千円を上回った影響により、利益剰余金が180,622千円増の3,010,772千円となったことによるものです。その他の包括利益累計額が増加しているのは、主に為替換算調整勘定が20,548千円増の19,569千円となったことによるものです。少数株主持分が減少しているのは、主にEXCBが連結の範囲から外れたことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、イーツアー株式会社の株式を新たに取得したことにより、連結の範囲に含めております。なお、平成24年12月31日をみなし取得日としたため、第2四半期連結会計期間より損益計算書を連結しております。

また、第1四半期連結会計期間において、株式会社エクスプレス・コンテンツバンクの株式を一部譲渡したことにより、持分比率が低下し関連会社となったため連結の範囲から除外しておりますが、平成24年12月31日をみなし売却日としたため、第1四半期連結会計期間の損益計算書のみ連結しております。

株式会社グルメびあネットワークについては、平成25年4月1日付で当社との吸収合併により消滅したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年10月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,750,825	2,320,543
受取手形及び売掛金	896,510	571,555
商品及び製品	6,111	4,429
仕掛品	936	5,186
原材料及び貯蔵品	353	693
繰延税金資産	94,382	129,162
その他	90,119	474,028
貸倒引当金	△28,378	△10,140
流動資産合計	3,810,859	3,495,459
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	59,335	73,555
機械装置及び運搬具(純額)	3,692	2,587
工具、器具及び備品(純額)	70,093	60,057
土地	50,400	83,108
有形固定資産合計	183,521	219,308
無形固定資産		
のれん	53,606	18,612
ソフトウェア	275,837	279,207
その他	1,528	5,593
無形固定資産合計	330,972	303,413
投資その他の資産		
投資有価証券	222,167	321,228
敷金及び保証金	191,425	228,438
長期貸付金	5,000	—
長期滞留債権	4,539	3,500
長期預金	—	4,500
繰延税金資産	30,798	27,023
その他	11,767	9,054
貸倒引当金	△9,372	△3,333
投資その他の資産合計	456,325	590,411
固定資産合計	970,820	1,113,133
資産合計	4,781,679	4,608,592

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	304,821	213,760
1年内返済予定の長期借入金	113,394	—
未払費用	175,822	76,978
未払法人税等	220,108	5,997
未払消費税等	18,191	11,963
前受金	157,582	574,998
賞与引当金	89,139	48,900
役員賞与引当金	8,200	3,225
返品調整引当金	1,470	1,441
ポイント引当金	27,580	4,570
その他	21,275	26,151
流動負債合計	1,137,585	967,986
固定負債		
長期借入金	157,723	—
ポイント引当金	—	3,656
その他	8,900	5,900
固定負債合計	166,623	9,556
負債合計	1,304,208	977,542
純資産の部		
株主資本		
資本金	277,375	277,375
資本剰余金	287,290	287,290
利益剰余金	2,830,150	3,010,772
自己株式	△17,410	△17,410
株主資本合計	3,377,405	3,558,027
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△6,113	△7,230
為替換算調整勘定	△978	19,569
その他の包括利益累計額合計	△7,092	12,339
少数株主持分	107,157	60,683
純資産合計	3,477,471	3,631,050
負債純資産合計	4,781,679	4,608,592

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
売上高	3,683,461	3,247,028
売上原価	1,774,249	1,585,160
売上総利益	1,909,212	1,661,868
返品調整引当金戻入額	3,283	1,470
返品調整引当金繰入額	2,111	1,441
差引売上総利益	1,910,384	1,661,897
販売費及び一般管理費	1,487,314	1,317,195
営業利益	423,070	344,701
営業外収益		
受取利息	230	842
受取配当金	815	2,079
為替差益	596	5,852
助成金収入	8,420	2,300
貸倒引当金戻入額	—	5,000
雑収入	3,111	1,842
営業外収益合計	13,173	17,915
営業外費用		
支払利息	1,335	1,117
持分法による投資損失	—	22,610
雑損失	117	119
営業外費用合計	1,452	23,847
経常利益	434,791	338,769
特別利益		
固定資産売却益	1,140	800
子会社株式売却益	—	22,576
投資有価証券売却益	1,000	276
負ののれん発生益	1,550	—
特別利益合計	3,690	23,652
特別損失		
固定資産除却損	5,866	2,225
関連会社株式評価損	4,102	—
のれん償却額	—	114,829
特別損失合計	9,968	117,055
税金等調整前四半期純利益	428,513	245,367
法人税等合計	209,895	20,501
少数株主損益調整前四半期純利益	218,618	224,866
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1,104	2,487
四半期純利益	219,722	222,378

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	218,618	224,866
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,518	△1,023
為替換算調整勘定	—	20,548
その他の包括利益合計	△3,518	19,524
四半期包括利益	215,100	244,390
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	216,204	241,810
少数株主に係る四半期包括利益	△1,104	2,580

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	乗換案内事業	マルチ メディア事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	2,884,156	661,582	3,545,738	137,723	—	3,683,461
セグメント間の内部 売上高又は振替高	40	—	40	41,124	△41,164	—
計	2,884,196	661,582	3,545,778	178,847	△41,164	3,683,461
セグメント利益 又は損失(△)	835,313	△190,210	645,102	30,575	△252,608	423,070

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託開発ソフトウェア業、情報関連機器リース業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△252,608千円には、のれん償却額△26,803千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△225,804千円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	乗換案内事業	マルチ メディア事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	2,901,749	234,741	3,136,490	110,537	—	3,247,028
セグメント間の内部 売上高又は振替高	192	—	192	28,996	△29,189	—
計	2,901,941	234,741	3,136,683	139,534	△29,189	3,247,028
セグメント利益 又は損失(△)	706,379	△114,601	591,778	△7,071	△240,005	344,701

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託開発ソフトウェア業、情報関連機器リース業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△240,005千円には、のれん償却額△9,914千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△230,091千円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間末において、株式会社エキスプレス・コンテンツバンクの株式を一部譲渡し連結の範囲から除外したことに伴い、のれんのコ額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象による当第3四半期連結累計期間におけるのれんの減少額は、44,672千円であります。

また、第2四半期連結会計期間末において、連結子会社であるイーツアー株式会社の株式を追加取得したことに伴い、のれんのコ額に重要な変動が生じております。

なお、当該事象による当第3四半期連結累計期間におけるのれんの増加額は、18,612千円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。